三人で野球をいっしょにがんばるぞ

成羽小学校　三年　　藤井（ふじい）　瑛太（えいた）

ぼくのお兄ちゃんは少年野球に入っていた。ぼくはそのチームの中の「キッズ」という、小さい子どもたちの野球チームに入っていた。

少年野球は、かんとくはこわいし、知らない人がいっぱいいる。練習もむずかしそうだった。キッズは、いっぱい友だちがいるし、コーチもやさしいし、練習も楽しかった。だからぼくは、キッズのままでいいと思っていた。

一年生になって、お兄ちゃんのしあいを見にいった。お兄ちゃんはピッチャーだった。ぼくはワクワクした。ボールをシュンとなげてかっこよかった。とうるいをシュと決めてかっこよかった。ドカーンとヒットをうってかっこよかった。だからぼくも少年野球に入りたいと思った。つぎの練習の後かんとくに、

「お兄ちゃんがドカーンとヒットをうってかっこよくて、お兄ちゃんみたいになりたいから入りたいです。」

と言いに行った。するとかんとくは、

「おっ入ってくれるんか。ならお兄ちゃん見たいになれるように練習がんばろうな。」

と言ってくれた。その日からお兄ちゃんと二人で野球の練習をするようになった。

キッズの時にこわいと思っていたかんとくは、ノックをする時はやっぱりこわかった。でも、バッティングの練習の時はやさしかった。おもしろい事を言って、わらわせてくれることもあった。キッズの時に知らなかった人もすぐに友だちになった。キャッチボールやおにごっこをして遊べるようになった。むずかしそうだと思っていた練習も、少しずつできるようになった。

少したって、ぼくもしあいに出ることになった。うてるかどうか、フライもとれるかどうかとドキドキした。でも、はじめてヒットをうった時は、キッズでヒットをうった時よりずっとずっと気持ちよかった。お兄ちゃんと同じ少年野球に入ってよかったと思った。

お兄ちゃんが六年生になってそつだんすると

一人になったような気がした。お兄ちゃんがいる時は二人でかべ当てやすぶりをして楽しかった。でもこれからは一人だと思うとかなしくなった。

　その時、なんとお姉ちゃんが少年野球に入ってくれた。ぼくは、安心した。こんどはお姉ちゃんと羽をうつようになった。二人で羽をうっている時が楽しかった。お姉ちゃんにどうしてきゅうに野球をしようと思ったのか聞いてみた。すると、

「えいたがかつやくするようになって、かっこよかったから。」

と、言ってくれた。ぼくが入る時に言った言葉と、にていてびっくりした。

　お姉ちゃんが少年野球に入ってくれて、お兄ちゃんは部活で野球をしていて、いまは三人で練習ができるようになった。三人いっしょにがんばるぞと思った。イエーイ。